鳥取県総合情報誌　vol.133

とっとりNow

Spring 2022



巻頭特集

今によみがえる弥生のWonderライフ

～古代山陰道と青谷上寺地遺跡～

特集

胸熱く感動呼ぶスポーツの力

躍進する鳥取のプロ・実業団チーム

鳥取県総合情報誌　vol.133

とっとりNow

Spring 2022

開運おかげ詣で 因幡と伯耆の神社	夏泊神社（鳥取市青谷町）	2
巻頭特集	今によみがえる弥生のWonderライフ ～古代山陰道と青谷上寺地遺跡～	4
TOTTORI おもしろ発見手帖	鳥取県中小家畜試験場	14
ここにこの人 Human Life	いわさき編物 岩崎 紀和子・冨田 富士子	15
企業紹介	スマートスターチ株式会社	18
鳥取のうま味	滋味深い本格割烹	19
特集	胸熱く感動呼ぶスポーツの力 躍進する鳥取のプロ・実業団チーム	20
Voice・読者プレゼント・編集後記		26

□「あーとの森」「カメラアイ」「きらり匠人」「VIVA!トットリLIFE」は休みます。



巻頭特集：古代山陰道の遺構が見つかった養郷狐谷遺跡



特集：練習に励む「Cheerful鳥取」の選手たち



●表紙イラスト●

池平 徹兵

いけひら・てっぺい

1978年福岡県生まれ。島根大学卒。東京オペラシティアートギャラリーprojectN、岡本太郎現代芸術賞展、VOCA展などに出展。満開の桜を泳ぐ若桜駅のSLに鯛のピンクを合わせて、ご卒業やご入学、新しい旅の始まりをお祝いする気持ちで描いた。

『とっとりNOW』が冊子で届く
「ふるさと来LOVEとっとり」の会員募集！
入会年会費無料



夏泊港の波打ち際に社殿が建つ夏泊神社。鳥居は社殿の真横に接し、鳥居をくぐると本殿がある

開運おかげ詣で
因幡と伯耆の神社



自然の岩と人の手で積んだ石が見事に融合した石垣

名石工・川六の作、ここにあり

夏泊神社　鳥取市青谷町

鳥居をくぐり、常夜灯がならぶ参道を進む。やがて社殿が姿を見せ、両脇に狛犬がいる、というのが典型的な神社の風景だ。

狛犬とは「異国の犬」すなわち「高麗の犬」が語源とされ、木製や陶製の狛犬を魔除けのために社殿の中に置いていた。やがてそれが社殿の外に置かれるようになり、石造になったのは江戸時代後期のことである。

幕末の因幡地方に、尾崎六郎兵衛という石工がいた。現在も鳥取県東部の寺社に40余りの狛犬、常夜灯、鳥居、地蔵尊が残り、「川積村（現鳥取市青谷町川積）の六郎兵衛」を略して「川六」または「河六」の銘が刻まれる。

川六の狛犬の特色のひとつに、川積村近くから産出した「青谷石」を好んだことがある。青谷石は、160万年前の火山の溶岩が固まった安山岩で、細工しやすいが硬い粒子を含むため形が崩れにくい。

青谷町の北端の岬・長尾鼻に鎮座する夏泊神社に、川六作の最古の狛犬（1839（天保10）年作）がある。180年以上前の石像とは思えぬそのくっきりとした輪郭に、技術と石選びのセンスが光る。

また同社の鳥居は1847（弘化4）年の作、さらに石垣の設計も手掛けたと考えられる。長尾鼻は安山岩でできた岩の塊、その一角にある石垣は、自然の岩と見事に融合しており、これこそ石を知りつくした川六の仕事といえるだろう。

文・写真／角田 治
協力／河根 裕二（川六ファンクラブ）



青谷石を使った川六作の狛犬。参道両脇で向き合わず、海を見るように正面を向く。愛嬌のある表情が特徴



ご利益　海上安全、大漁、開運、商売繁盛

プロフィール　つのだ・おさむ　グラフィックデザイナー。神仏探訪家。『山陰の神々 古社を訪ねて』（山陰の神々刊行会）など、神社にまつわる書籍の取材・執筆・撮影。

神社情報　所 鳥取市青谷町青谷5513　☎ 0857-29-2627（宮永貴幸宮司）



弥生時代後期（約1800年前）の青谷平野の環境復元グラフィックス。河口付近の小高い陸地に集落を形成した☆

目の前には美しい日本海、背後に豊かな里山を控えた
青谷（あおや）平野（鳥取市青谷町）が今、
専門家や考古学ファンの注目を浴びている。
その熱い視線の先にあるのは、
古代山陰道の道路遺構と青谷上寺地（かみじち）遺跡。
太古の眠りから覚めた遺物や遺構は何を語るのか。
時空を超え、古代ロマンに思いをはせる。

文／日高 むつみ　写真／青木 幸太



現在の青谷平野。北東側のラグーンは時代とともに縮小し消滅した☆

★写真・イラスト提供＝鳥取県埋蔵文化財センター
☆写真提供＝鳥取県とっとり弥生の王国推進課

今によみがえる 弥生のWonderライフ

～古代山陰道と青谷上寺地遺跡～

古代山陰道

都と地方を結ぶ 古代ハイウェイ

【古代山陰道の推定ルート】





小石を土に混ぜた路面の舗装（写真上）★
土留めに使われた木の杭の跡（写真右）

かつての因幡国、伯耆国との国境にして海と陸の道が交差する鳥取市青谷町。2017年、山陰自動車道（以下、山陰道）の整備に伴って、古代山陰道の跡が見つかった。古代山陰道は律令時代に都と地方を結んだ官道「七道駅路」のひとつ。くしくも「現代の山陰道」建設をきっかけに、「古代の山陰道」が見つかったことになる。同じ位置に上下に重なり、同じ方向を目指す2つの道路。「七道駅路」は古文書に記録がほとんど残っておらず、発見された遺構も全国的に類がない。ベールに包まれていた謎に光が差した発見だった。

調査のスタートから関わってきた鳥取県埋蔵文化財センターの坂本嘉和さんは、「青谷横木遺跡でも青谷上寺地遺跡でも、道の遺構は驚くほど良い状態に保たれていた。小石を土に混ぜた路面の舗装も木の杭も1300年以上前のものとは思えないほど。盛土に敷かれた葉も、発掘直後は緑色のままなんです」。遺跡が点在する青谷平野はラグーン（※1）があったことで、長年、さまざまな物が水中に埋まって酸素に触れなかったことが幸いしたらしい。

発掘により明らかになったのは、古代山陰道が道幅9メートルの堂々たる道路であったこと。地形に関わらず直線的なルートを貫こうとしていたこと。そこに為政者の強い意志を感じると坂本さんは言う。「朝廷の決定を最速で地方に行き渡らせるという意志。そして、これだけの道を作れるという力の誇示。軍道として利用する思惑もあったのでしょう」

※1ラグーン＝潟湖。沿岸の浅海の一部が砂州、砂嘴などによって、外海と切り離され浅い湖沼となったもの

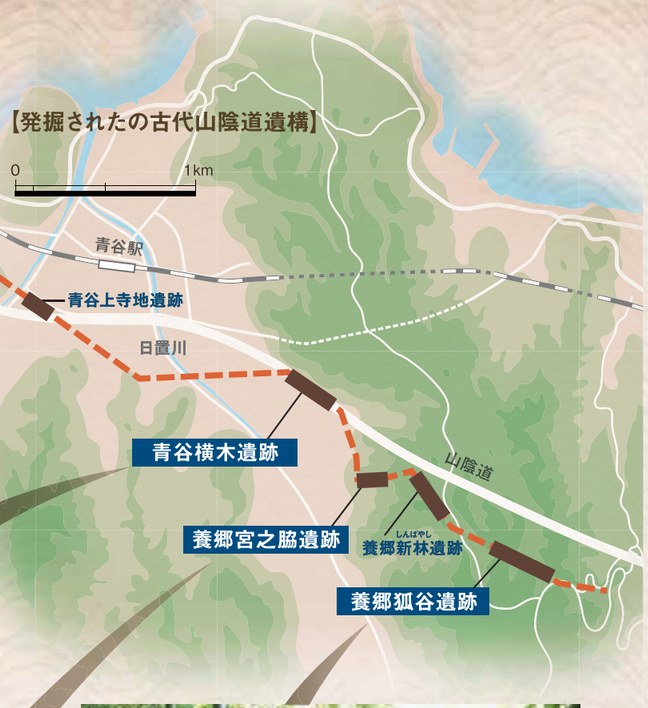
全国に整備した古代の高速道

飛鳥～奈良時代の七道駅路

律令国家が飛鳥～奈良時代にかけ、都と地方との情報伝達のために整備した7本（東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・南海道・西海道）の幹線道路。最短距離で結ぶため真っ直ぐに延び、現代の高速道路ルートと重なることも多く、道幅も9～12mと広い。約16kmごとに駅家（現代の道の駅）を置き、駅使（公的な使者）が馬で1日約160kmを疾走していた。



道幅は最大で約9m、石を混ぜた路面や側溝の跡もくっきり（青谷横木遺跡）★





高低差がある丘陵地帯を乗り越えた部分（養郷狐谷遺跡）★

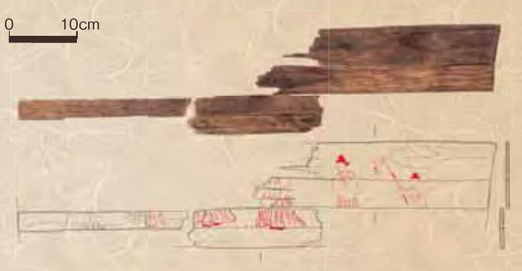


「つづら折り」のカーブ外側部分（養郷宮之脇遺跡）★

盛んな対外交流を表す板絵

『女子群像』出土の青谷横木遺跡

青谷横木遺跡では2016年、複数の女性像が墨で描かれた板絵『女子群像』が見つかった。飛鳥時代の終わり頃のもので、古代山陰道の盛土から出土した可能性が高い。国宝・高松塚古墳壁画（奈良県明日香村）に次ぐ2例目の飛鳥美人で、板に描かれたものとしては国内初。日本海に面し対外交流が盛んだった地域ならではの出土品だ。



複数の女性（女子群像）が墨で描かれた板絵（写真上）と実測図（2016年）★

当時の最先端技術を総動員

まさに国家の威信をかけた一大事業だ。高低差が激しい養郷狐谷遺跡の丘陵尾根では、切土と盛土の2種類の工法を巧みに組み合わせたり、青谷上寺地遺跡の低湿地では排水性を高めるため、木の枝や葉を盛土内に敷き詰めたりと、地形に応じて柔軟にあらゆる知恵を絞っている。さらに馬が直登できない養郷宮之脇遺跡の急傾斜地では、くねくねと曲がった形状の「つづら折り」にすることでしのいだ。しかも、道幅はすべて9メートルを保ったまま。重機も電気もない時代、これだけの土木工事をやってのけるとは！



養郷宮之脇遺跡の急傾斜地「つづら折り」を再現したイラスト（山本正治作）と3次元地形図★



山の中に残る古代山陰道。草木に覆われているが実際に歩いてみると、その名残りがよくわかる（養郷狐谷遺跡）



「調査をコツコツ積み重ねていくことで、新しい発見が出てくる可能性が高まる」と坂本さん

遺構の調査は、道路を横方向に何カ所かカットする。これにより道幅や工法などが判明する（養郷狐谷遺跡）

丘陵に採用された道路の4パターンの工法

「朝鮮半島からもたらされた木の枝や葉を利用する工法は、現代でも使われています。丘陵と低湿地の両方があるこの地域では、難工事をクリアするため当時の最先端技術が総動員されたのでしょう」。その高度な技術は、1300年後の今にしっかり受け継がれたのだ。

一方、青谷横木遺跡では、側溝の外側で柳並木の痕跡が見つかり、「これは平城京の大通りを再現したもの。国家権力を見せつける道路として都と同じ高い格式を意識したのでしょうね」と坂本さん。つづら折り工法といい、柳並木といい、日本初の発見であり、全国の専門家からの関心も高い。

青谷平野に眠る遺跡は、いわばタイムカプセル。これからまだまだ、どんな宝物が出てくるのか未知数の可能性を秘めている。それほど遠くない将来、さらに古代史や土木史を塗り替えるような、ワクワクする発見があるかもしれない。

問 鳥取県埋蔵文化財センター
所 鳥取市国府町宮下1260 ☎ 0857-27-6711
WEB https://www.pref.tottori.lg.jp/maibun/



何層にも分かれている地層は、地盤の強度を保つために盛土の種類を変えたことがわかる（養郷狐谷遺跡）

古代山陰道の復元イラスト（山本正治作）。平城京の大通りを再現したとされる柳並木の判明は国内初（青谷横木遺跡）★

家持が『万葉集』に詠む
格式演出した柳並木

因幡国司となる前の大伴家持が、越中国司だった時に都大路を懐かしんで詠んだ和歌が『万葉集』に残る。柳並木は、地方の官道においても都と同じ格式高い道路景観が演出されたことを示す。

青谷上寺地遺跡

多角的な生業と開かれた集落

青谷上寺地遺跡もまたフタを開けてみたら、誰ひとり予想しなかったほど大きな宝箱だった。特に日本最古の弥生人の脳の出土（２０００年）が、一大旋風を巻き起こしたことは記憶に新しい。20年の歳月で研究や科学技術が発展し、その暮らしぶりがさらに分かってきた。

「ひとつの遺跡からの出土品１３５３点が国の重要文化財に指定されるのは全国的に見ても希少。保存状態も極めて良いことから、〝地下の弥生博物館〟と称されています」と、青谷上寺地遺跡整備室の岡野雅則さんは語る。

土を耕す鋤（すき）や鍬（くわ）、ワラを打つ横槌（づち）などの農耕具、舟の櫂（かい）は「三代前のおじいちゃんが使っていたもの」と言われても疑わないほどの形を保ち、シカの角やイノシシの骨で作られた釣り針や銛（もり）は、今も漁具として使えそうな現役感。土器や木製の容器に施された朱色は鮮やかでみずみずしい。木製の盾に塗られた緑色顔料は、日本はおろか東アジアにおける最古の使用例と解説されて驚いた。

これは、土の中が天然の真空パック状態だったことによる。「遺跡が見つかった青谷平野は、地下水位が高く水も中性。空気を遮断した環境で地中の有機物が分解されにくくなった。だから多様な製品や人骨や脳まで、約２０００年も朽ちずに残存していたのです」

注目すべきは、保存状態だけでなく「出土品のバリエーションの豊かさ」と岡野さん。これまでは「弥生時代＝農耕。集落全体で田んぼを耕し、米づくりを中心にした暮らし」とされてきた。しかし多彩な出土品が、その概念をがらりと覆した。

「農耕具だけでなく、漁労具や狩猟具、さらには木製容器類や玉を作る作業に関わる製品や工具類もあった。これは弥生時代の青谷の人々が、稲作だけでなく漁労、狩猟、さらにはものづくりまでも生業として行っていた証です。木製の容器類などは、海路を使った交易に利用されていたようです」。実に多角的であり、そして外に向かって開かれた集落だったようだ。



「保存状態が良い多彩な出土品から、弥生人の多様な暮らしぶりが明らかになった」と岡野さん

農　耕

現代のスコップとほぼ変わらない長さ82cmの「平鋤」や、耕す鍬（くわ）など数々の農耕具 ☆



【 又鍬（またぐわ） 】



【 組合わせ平鋤（ひらすき） 】

【 平鋤（ひらすき） 】



【 横鍬（よこぐわ） 】

漁　業

ラグーンや近海を航行する丸木舟の一部や船をこぐ「櫂」のほか、大型の魚を取るための結合式釣針など、用途に応じて工夫を凝らして作られた☆



【 離頭銛頭（りとうもりがしら） 】



【 櫂（かい） 】

【 結合式釣針（けつごうしきつりばり） 】

神　事

獣の肩甲骨を用いた「卜骨」は吉凶の占いに、６枚の板を組み合わせた琴は、神事に使われたという。板には動物の絵柄が刻まれている☆



【 卜骨（ぼっこつ） 】



【 琴 】

優れたデザイン、高い機能性で人気
職人集団が確立した〝青谷ブランド〟

高杯（たかつき）や壺、桶形容器など青谷上寺地遺跡から出土した木製容器には、現代の工芸品に匹敵する高度な技術と高いデザイン性が備わっている。こうした器は祭祀儀礼など特別な機会に用いられたようで、中には欠損することなく見事に完全な形で出土したものもある。

これらの素材として多く用いられたのは、木目が美しく精緻（せいち）な加工を施しやすいヤマグワやケヤキ、ヤマザクラなどの広葉樹。浮き彫りや透かし彫りなどの装飾やシャープなライン、細部に至る丁寧な仕上げからは、鋭利な鉄製の刃物が道具として用いられたことが読み取れる。また黒漆や赤漆、赤色顔料で彩色が施されたものもあり、木工に関する技術の奥深さにも驚かされる。

おそらく、木製品の製造に専業で従事する職人集団が存在したのだろう。その中で技術と美意識が磨き上げられた結果、新たな価値が生み出され、優れた品質を誇る〝青谷ブランド〟が確立されたものと思われる。花弁文様をデザインした木製高杯は、山陰のほか、北陸や九州北部からも出土しており、当時の人気の高さをうかがうことができる。



デザイン性に優れた容器や壺の数々

【 船 】



【 ヤス先 】



「ヤス先」は４本を根元でまとめて使う。「筌」は河川やラグーンに設置してウナギなどを捕獲する。「弓」は木製で長さ107cm。原木をほぼ加工せずそのまま使用☆

【 筌（うけ） 】



【 弓 】



ものづくりと交易の一大拠点

加工具



【縦斧（たておの）】



【小型の磨製石斧（ませいせきふ）】

木材の伐採などに使う「縦斧」や木製品の細部を加工する「小型の磨製石斧」、「鑿」などの多様な加工道具☆



【鑿（のみ）】

木器



【桶形容器（おけがた）】



【槽（そう）】

くびれた外形ラインと脚部の透かし孔（あな）が美しい「桶型容器」や底に円柱状の低い脚がついた四角形の容器「槽」☆。写真右はアシンメトリーなデザインが特徴的な高杯（復元品）



【高杯（たかつき）】

古代の青谷平野に広がるラグーンは、砂州（さす）によって外界と隔てられ、荒天でも波穏やかだったに違いない。舟の破片や櫂は、ラグーンのどこかに船着場があったことを物語り、海路を使った他地域との交流が盛んだったとみられる。出土品の中には、九州から山陰、北陸にかけての日本海沿岸だけでなく、山陽や四国、また遠く中国、朝鮮半島から持ち込まれた交易品も少なくない。

こうした中で、青谷の人々が生み出す品々の交易も盛んに行われた。その代表と思われるのが、花弁の浮彫文様をもつ木製の高杯（たかつき）。弥生時代に生み出された品々はシンメトリー（左右対称）のデザインが多いが、この高杯はそれに部分的なアクセントをつけ、装飾性を高めたものが生み出されている。「容器としての機能を追求しながら、造形的にも優れ、現代でも通用するクオリティーです」と、称賛する岡野さん。

また、碧玉（へきぎょく）（※2）を使った装飾品も多い。「勾玉（まがたま）や管玉（くだたま）の完成品だけでなく、磨きをかける玉砥石（といし）や、玉に穴を通すための石針などの加工道具もあり、作りかけの未成品も。これらは加工が行われていた証拠で、製作のプロセスを明らかにしてくれる重要な資料です」

出土品だけでなく約14ヘクタールに及ぶ遺跡も、弥生時代を読み解く貴重な資料として国の史跡に指定された。現在、鳥取県では「青谷かみじち史跡公園（仮称）」の整備を進めており、2023年には、「展示ガイダンス施設」を含めた一部がオープン。米子（よなご）市、大山町（だいせんちょう）にまたがる妻木晩田（むきばんだ）遺跡（※3）とともに「とっとり弥生の王国」として、県内外に情報を発信していく予定だ。

2023年にプレオープン
青谷かみじち史跡公園（仮称）

山陰道南側に「展示ガイダンス施設」「弥生の湿地ひろば」などを整備し、2023年11月頃にオープン予定。その後、北側の整備を経て2029年にグランドオープンする。

人々の盛んな往来が判明

青谷上寺地遺跡では人骨が約5300点、少なくとも109体分が出土。中には脳組織が残された個体も発見され、国内初のニュースが世間をにぎわせた。また、つい最近では男性の頭蓋骨を元に復顔模型が製作されたことでも話題になった。



2000年に出土した頭蓋骨を元に、当時の弥生人の顔を分析した復顔模型☆

人骨のDNAを分析

これらの人骨から取り出したDNAを分析したところ、明らかになったのが青谷の社会像だ。サンプルとされたのは、頭の骨の一部と奥歯。母系に受け継がれるミトコンドリアDNAを調べたところ、そのほとんどが渡来人に由来し、互いに血縁関係をもつ個体はほとんどなく、異なるルーツを多く持つことが判明した。一方、父系に受け継がれるY染色体DNAには、日本在来の縄文人に由来する系統も含まれていた。

つまりはさまざまな地域に由来する人々が青谷に集っていたということ。一般的に小規模で閉鎖的な集落では同じミトコンドリアDNAを持つ人が多くなり、流入と離散を繰り返す都市では同じミトコンドリアDNAを持つ人は少なくなる。青谷は圧倒的に後者の都市型。交易品とともに多くの人が流入し、外に向かって開かれたオープンな社会を形成していたことになる。ものづくりの場面でも、この風通しの良さが斬新な意匠を生み出す力になったのかもしれない。



シカやイノシシ、イヌ、サルなど約20種類の動物の頭や脚の骨も見つかっている

装飾品



【勾玉（まがたま）】



【管玉（くだたま）】

糸を通して首飾りなどにする「勾玉」や「管玉」。勾玉素材の一部は新潟県産の翡翠（ひすい）☆

交易品



【貨泉（かせん）】



【星雲文鏡（せいうんもんきょう）】

中国の王朝・前漢で作られた鏡「星雲文鏡」の破片（写真右上）。国内出土の９例のうち、九州以外では唯一の出土例。貨泉は中国の王朝・新が発行した貨幣☆

青谷の地ではるか昔、私たちと同じように日々を懸命に生きた人がいた。予想をはるかに上回る、創造性豊かな暮らしぶりに感動した。時を超え、古代に思いを巡らすことは、世界を広げ人生を少しばかり豊かにしてくれる。

※2碧玉＝微細な石英（せきえい）の結晶が集まってできた鉱物

※3妻木晩田遺跡＝日本最大級の弥生時代の集落跡。国の史跡に指定。

問 青谷上寺地遺跡展示館
青谷上寺地遺跡の概要を出土品やパネル展示し、わかりやすく解説している。
所 鳥取市青谷町青谷4064 ☎ 0857-85-0841
WB http://www.tbz.or.jp/kamijichi/

問 鳥取県とっとり弥生の王国推進課・青谷上寺地遺跡整備室
収蔵庫に並べられた木製品や土器など、青谷上寺地遺跡出土品の保管収蔵施設の一部を見学できる。
所 鳥取市青谷町青谷667（鳥取市青谷町総合支所2階）
☎ 0857-85-5011
WB https://www.pref.tottori.lg.jp/aoyakamijichi/

ここにこの人 Human Life



光を受けてキラキラと輝くニット。シルクのやさしさに包まれて、身に着けた人の笑顔も輝く。岩崎紀和子（きわこ）さん（81）、冨田富士子（とだ）さん（78）姉妹が生み出す上質で洗練されたシルクニットは、たくさんの女性たちの人生に華やかさと彩りを与えている。

いわさき編物（ニットいわさき）

岩崎 Iwasaki Kiwako 紀和子

冨田 Toda Fujiko 富士子

文／井田 裕子　写真／萱野 雄一

鳥取県中小家畜試験場

所 西伯郡南部町北方 633
☎ 0859-66-4121
WB https://www.pref.tottori.lg.jp/chushokachiku/

系統を守り続け、ブランド力向上へ





身近な食材である鶏、豚の生産技術や飼養を担う鳥取県中小家畜試験場。敏感な消費者の舌に応えるべく長い年月をかけて1992年、高品質肉用鶏「鳥取地どりピヨ」（以下、ピヨ）を生み出した。約30年が経ち、生産体制も安定した今、数値化によるブランド力アップを目指している。

「ピヨ」のうまさは「育ち」にあり

現在流通する鶏肉の９割以上は「ブロイラー」。短期間で太らせるよう品種改良され、狭い空間で大量に飼育されている。一方、「地鶏」であるピヨは、地域固有の在来種を親にもち、広々とした環境で長期間飼育するため、歯ごたえの良いコクのある食味に育つ。

【ピヨの交配】

軍鶏（しゃも） 祖父 ＝ 祖母 ロードアイランドレッド

在来種。江戸時代に闘鶏用としてタイから輸入された。気性が荒く、大型で肉量が多い。

在来種。産卵性に優れ、主に地鶏生産に利用される。成長に比較的時間がかかる。

交雑種 父 ＝ 母（ぼくしょく） 白色プリマスロック

性格がおおらかで人懐こい。ブロイラーのヒナの生産にもよく利用される品種。

子



鳥取地どりピヨ

75~110日間じっくり飼育し、それぞれの成長の具合をみて適当な時期に出荷される。

地鶏の生産基準（JAS規格）

① 在来種（※１）の血液が50%以上
② １平方㍍当たり10羽以下での平飼い（※２）
③ 飼育期間がふ化日から75日間以上
※１＝明治時代までに国内で成立し、または導入され定着した鶏の品種（コーチン、比内鶏など38種）
※２＝平らな地面の上で放し飼いの状態で飼育する方法

元気なヒナを育て業者へ供給

ピヨは現在、鳥取市鹿野町（しかのちょう）と智頭町（ちづちょう）の飼育業者で飼育されており、試験場でふ化させた約1000羽のヒナを、それぞれ毎月１回、引き渡している。

マッチング
選ばれた種鶏（オス）とメスを同じ鶏舎で平飼いし、交配させる

集卵
巣箱に産み落とされた卵を1日２回集め計測し、お湯で洗浄後、消毒する。

貯卵
ふ化させる順番が来るまで３～４週間、冷蔵庫で眠らせる。

ふ卵器に入れる
37.6℃に設定されたふ卵器に入れて、湿度を調整。1時間に１回自動で卵を傾ける。

検卵
18日目に１度卵を取り出し、光を当てて確認し、有精卵だけをふ卵器に戻す。


〈有精卵〉　〈無精卵〉



ヒナの誕生
およそ21、22日目頃

出荷
ワクチン接種とくちばしのカット後、引き取りに来た飼育業者の飼育場へ



飼育中につつき合いで、けがをしないように、ヒナの時にくちばしを少しカットします。



環境・養鶏室長の植松亜紀子さん

おいしさを見える化へ追求！

地鶏が国内60品種を超えるいま、「ピヨ」のブランド力をどう高めるかが課題。ピヨの食味の特徴を明らかにしていくため、日本獣医生命科学大学と共同でピヨ肉の理化学分析や味・香り・食感などの官能評価を行い、おいしさを数値化する研究を進めている。

文・イラスト／雲坂紘巳（くもさか・ひろみ）
納豆が大好きなイラストレーター。1982 年生まれ、鳥取県育ち。づるづるした食べ物が好きなことから、屋号は「スタジオづるり」。
WEB=http://dururi.com

優美に華やかに人生を彩る





ニットの編み物は、一つ一つの工程に熟練の手技が必要。従業員の方々も長年携わるベテランが多い

上品で着心地も抜群

キャリジを左右に動かしてメリヤス編みやレース編みなど豊かな表現ができる家庭用の編機。1960~70年代頃には、一家に一台あったほど流行し、各地で編物教室も開かれていた。ものづくりが好きだった18歳の富士子さんも通い始める。当時、米子市内で広告デザインの仕事をしていた姉の紀和子さんも働きながら通い、それぞれが講師を務めるほどの腕前まで上達。お互いに自身の店を開くなどして服の販売もしていたが、「2人ならもっといい服をつくることができる」と1988年、姉妹で「いわさき編物」として創業、新たなスタートを切る。

紀和子さんがデザインして、富士子さんが製図を担当。編物教室の生徒をスタッフに迎え、独特の風合いが出せる家庭用編機にこだわって1枚1枚、丁寧に形づくっていく。腕や胴体など体の部分ごとにゲージ（※1）を変えて、動きやすく長持ちするように工夫。当初は日常着のセーターなどが多かったが、「上質なおしゃれを楽しんでほしい」と、優雅なシルエットのワンピースやツーピースなどの製作にシフト。なめらかな光沢と上品さを備えたシルク糸を使い、着心地が良く、機能的でデザイン性に優れた服を次々と生み出してきた。「アイデアがどんどんあふれてきて」と紀和子さん。

全国の百貨店に出品

姉妹でつくり始めて1年目には神戸の百貨店に出品。エレガントさと着心地の良さがたちまち評判を呼び、各地で展示会を開くようになった。現在では一流のブランド店が軒を連ねる東京の帝国ホテルアーケードに店を構える他、東京都内、大阪、名古屋など大都市の百貨店で定期的に展示会を開催している。



「興味あるものがたくさんあって。趣味が多いです」と富士子さん

いわさき・きわこ ＊ とだ・ふじこ

米子市生まれ。高校で美術部だった紀和子さんは、卒業後、広告デザイン業に従事。富士子さんも絵を描くのが好きで画家志望だったといい、共に芸術やものづくりに触れてきた。1988年に「いわさき編物」を開設。製法にこだわった高級感のあるシルクニットは、全国のおしゃれを楽しむ女性たちに愛されている。

豊かな感性で生み出すニット



「デザインのアイデアが次々あふれて来るんです」と紀和子さん

シルクニットは体にそっと寄り添う心地よさが特徴で、初めて着る人をとりこにするという。細部まで手を抜かないしっかりした仕立てで、長く着られるだけでなく、直しやオーダーメイドにも応じており、顧客からの信頼は厚い。季節に応じた色使いを心掛け、大山（だいせん）や砂丘など鳥取の自然をモチーフにしたデザインも。全国のファンが新作を心待ちにしている。

赤いワンピースを手に取り、「私にはこの色しか似合わないの」とほほ笑む90代に、「シャンソンを歌う時の衣装にするわ」とお気に入りを選ぶ80代の常連客。はつらつとおしゃれを楽しむ熟年の女性たちに「私たちも刺激をもらっています」。

休日になると姉妹とも、それぞれが美術館に行ったり、スポーツ観戦したり、絵を描いたりとアクティブ。幅広い興味が創作意欲につながっているようだ。

「おしゃれに生きる」

デザインから身頃の製図、編み、仕立てまですべてを手掛け、商品のほとんどは一点物という〝オートクチュール（※2）並み〟の高い品質を持つ「いわさき編物」の服。工房では、30~70代の女性たちが慣れた手つきで作業をする。「スタッフのみんなが『いい服をつくろう』と、私たちと同じ気持ちで取り組んでくれています」と富士子さん。

家庭用編機の製造はすでに終了したため、今ある機械を大事にしながらこだわりの製法を守り続ける。「私たちがやめたら、この製法での服はなくなってしまう」との責任感もあるという。

「つくり出すことは楽しい。夢は大きく世界にも広めたい」と紀和子さん。「今も気持ちは若い時のまま」と富士子さん。生き生きと語る2人の若々しさに、「おしゃれに生きる」素晴らしさを教わった。





ラフデザイン（写真上）をもとに、それぞれの模様を編み機用のパターン（写真左）に落とし込む



※1ゲージ＝一定寸法中の編み目の数
※2オートクチュール＝パリの高級婦人衣装店、またはその店でつくられる高級仕立服

問 いわさき編物
☎ 0859-29-0112
所 米子市上後藤6-5-20

「値打ちを発掘し、未来の当たり前をつくる」が
モットーのスマートスターチ株式会社。
開発した整腸を促す商品は、
〝腸活〟が話題となっている昨今、注目の的だ。
代表取締役の工藤泰正（たいせい）さんは、
これを足掛かりに持続可能な循環に目を向け、
海外の市場も視野に入れる。



原材料はグリーンバナナのみの
「Smart Starch」

研究者の熱意を日の当たる場所へ

腸内の善玉菌を活性化し、便通や腸内環境の課題に対してさまざまな健康効果が期待できる食物繊維「レジスタントスターチ（難消化性デンプン）」。豆類などに含まれるデンプンの一種で、胃や小腸で消化吸収されず大腸まで届く食素材として注目されている。同社の製品『Smart（スマート） Starch（スターチ）』は、それを豊富に含み、原材料は有機栽培されたバナナのみ。無味無臭白色の粉末で、飲み物やヨーグルトなどに混ぜて手軽に摂取でき、使用者からは「お腹の調子が良くなった」など評価は高い。

製品の誕生までには、長い道のりがあった。発端は四半世紀前、岡山県の研究者・林原克明さん（共同創業者）がバナナ農園の廃棄ロス問題に着目したこと。長年の研究の末、成熟前のグリーンバナナから、高純度のレジスタントスターチの抽出に成功したが、その後の事業化に苦戦していた。それを間近で見ていた共通の知人が「世の中のためになる技術を持つ研究者が苦労されている」と、工藤さんに連絡をしてきたのがきっかけだ。

当時は、東京で大手企業の人材部門で働いていた工藤さん。「その時はまさか自分が代表を務めるとは夢にも思わず」。しかし、しばらく考え続けるうち、林原さんの情熱に感銘を受けると同時に、「環境にも、体にも優しい」取り組みの価値の高さを実感。「これをこのまま埋もれさせてはいけない」と意を決した。会社を退職後２０１９年、林原さんと共同で創業、自身が立ち上げにかかわった縁で複合施設「隼Ｌａｂ.（はやぶさラボ）」（八頭町（やずちょう））内に本社を置いた。

とはいえ、まるで畑違いの未知の分野。しかも世界でも前例のないバナナ由来のデンプン工場の設立だ。資金調達や技術者の発掘のために全国を駆けずり回り、多くの協力をあおぎ、ようやく体制が整った。

現在、工場は静岡県にあるが、バナナ生産地である中南米やアジアの農園の雇用問題も見据え、近い将来、現地プラントの創設を目指す。

「子どもから高齢者、さらにペットまで手軽に摂取でき、用途の幅も広い。まずは認知度を向上させ、さらに量産化技術を磨いて世界に発信していきたいです」と、可能性を探り続けている。

文／倉恒 弘美　写真／田中 良子



グリーンバナナから抽出した粉末。
無味無臭で手軽に摂取しやすい

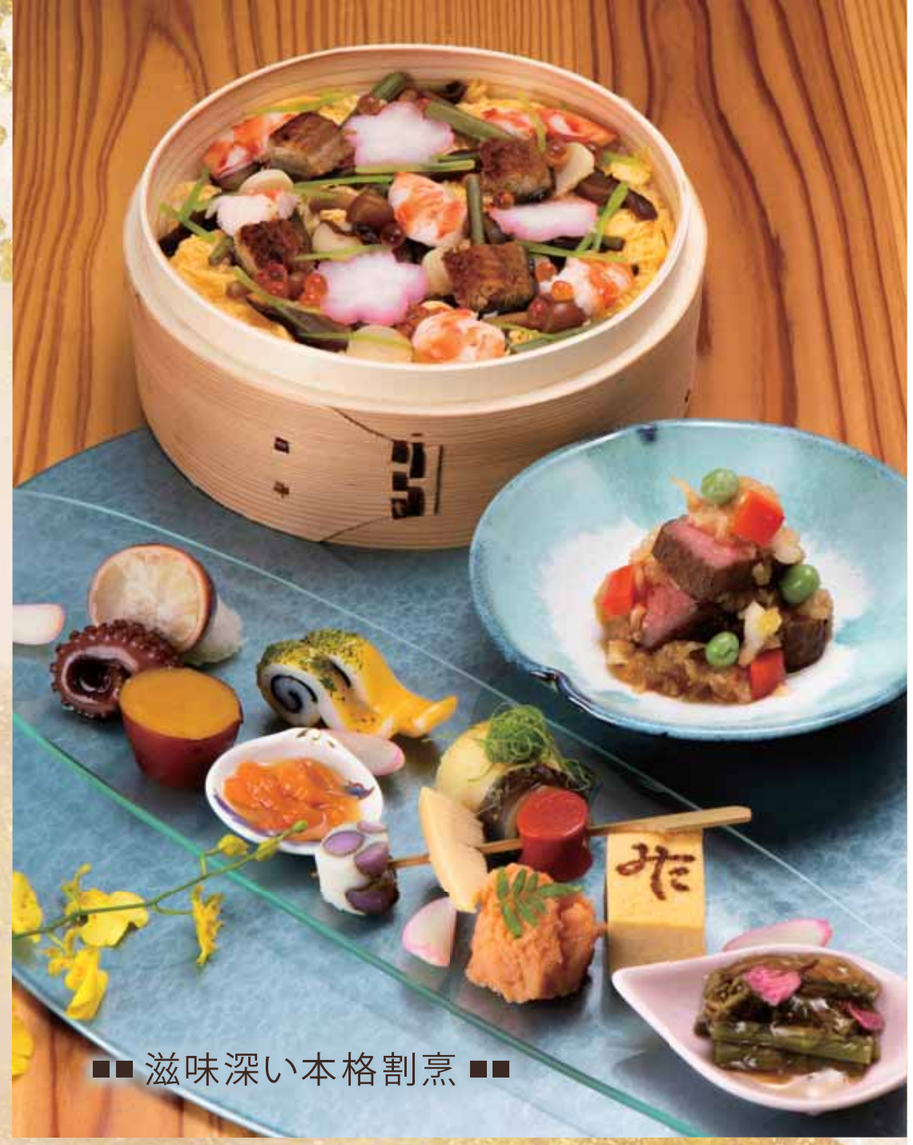


「製品を広めるとともに、持続可能な
社会づくりへも貢献したい」と工藤さん

スマートスターチ株式会社
代　表／工藤 泰正
設　立／2019年5月
資本金／1億円
所 八頭郡八頭町見槻中154-2（隼Lab.内）
☎ 03-6803-8789（東京営業所）
WB https://smartstarch.co.jp/

※取材は2021年12月に行いました

繊細な仕立てで味わう至福の時



おまかせコースの「星」（7500円税込）「月」（4800円税込）をメインに単品も。客の好みを聞き、それに合わせた料理を提供する。
※季節によりメニューは変更あり。

和食みた
所 鳥取市弥生町259-2
☎ 0857-51-1919
営 17時30分～21時30分（L.O.）
休 日曜、祝日

一皿一皿に漂う四季の移ろい、繊細な仕立てに「目で、舌で、堪能してほしい」という心意気があふれる。「和食みた」は、厳選した食材を使った趣深い日本料理を気軽に楽しめる割烹料理屋だ。

店主の三田洋介さんは、鳥取市内で日本料理の基礎を学んだ後、大阪で修業を積む。38歳の時、地元に戻り２０１８年3月、この店を開いた。

「大阪時代の師匠から『〝まあるい味〟を出しなさい』と教わりました」。北海道産の良質な昆布や鹿児島・枕崎産のかつお節などをふんだんに使い、素材の味を包み込むような〝まあるい味〟を常に心がける。

コース料理をメインに単品も提供、いずれも旬の食材に合わせて毎日内容を変える。春にはワラビに見立てたイカや鯛の子含め煮などの前菜、万葉牛（まんようぎゅう）（※）の分厚いモモ肉を大根おろしでさっぱりといただく肉料理、エビや山菜入りの蒸しちらしと続く。良心的な値段とボリュームが評判を呼び、足しげく通う常連客も多い。

「食事を通して、楽しく心地よいひとときを」と、店内には三田さんが好きなジャズが流れ、料理と会話にさりげなく寄り添う。のれんの向こうには、大切な誰かと過ごしたくなる至福の時間が待っている。

※万葉牛＝万葉牛生産流通組合が鳥取県で飼育した黒毛和種。脂の融点が低く、口溶けの良さと和牛本来の旨さを追求した肉牛

文／井田 裕子　写真／佐野 明美

胸熱く 感動呼ぶ スポーツの力

躍進する鳥取のプロ・実業団チーム





スポーツが人々に与える力は大きい。
観戦するだけでも高揚感をもたらし、
時に、まちに活気を生み出す起爆剤にもなる。
ここ鳥取県にも地域に密着しながら、
卓越した数々の技で魅せ、躍進する
新しいプロ・実業団スポーツチームがある。

文／鳥飼 明子　写真／山内 一峰

TOTTORI BLUE BIRDS

鳥取ブルーバーズ



練習は、5人制バスケの選手たちと合同で行う。真冬の夜の体育館でも、熱気にあふれている

イベント展開でまちに活気

2020東京オリンピックを大いに盛り上げた新種目の一つに、3人制バスケットボール「3x3（スリーエックススリー）」がある。コートは5人制の約半分（横15メートル、縦11メートル）、リングは1つ。ショットクロック（※）も半分の12秒。目まぐるしく攻守が変わるスピード感、激しいぶつかり合い、それをくぐり抜けながら放つ見事なパスやシュートが最大の魅力だ。国際大会や国内プロリーグもあり、各地で熱いゲームが繰り広げられている。

鳥取県にあるそのプロチームが「TOTTORI BLUE BIRDS（トットリ ブルー バーズ）」（以下、鳥取ブルーバーズ）。ドローンを活用した事業を展開する株式会社skyer（スカイヤー）の代表取締役・宇佐美孝太（うさみ）さんが立ち上げた。大学でスポーツビジネスを学んだ宇佐美さんは、「3x3は地方活性化のツールになり得る」と、在学中からその可能性に注目していたという。

「省スペースでできるし、試合時間も短いから、気軽に開催できる。音楽やダンスと融合したエンターテインメントの要素もあり、ほかのイベントと組み合わせやすい」からだ。鳥取市にIターンして会社を設立した2016年頃からプロチーム発足の構想を練り、選手探しや資金確保を進め、19年5月、ついに鳥取ブルーバーズを誕生させた。

以降、チームを活用したイベントを各地で積極的に展開。体験会やプロ選手の技術指導、エキシビションマッチ、協賛企業のワークショップなどを盛り込む。開催するごとに、「まちに活気が出た。またやってほしい」と喜びの声も届くように。

さらに面白いのは、チームの立ち上げ前から鳥取城北高等学校の生徒をインターンとして受け入れ、SNSを通じた広報やイベント企画など、チームの運営に参加してもらっていること。そこには、「さまざまな経験をする機会を設けることで、地域の若者たちに自分の可能性を広げてもらいたい」という、宇佐美さんの願いが込められている。加えて米子南高等学校もイベントの企画運営、青翔開智中学校・高等学校（せいしょうかいち）は新しいグッズ開発なども手掛け、若い力が発揮されるこれらの事業は、確実に鳥取の未来を育んでいる。

今年は4年目のシーズンを迎える。2年目から選手枠に鳥取・島根県人枠を設けており、地元出身選手が活躍できる機会を増やした。大きな目標は「ブロックの上位2チームに入り、決勝に進出したい」。同時に、「まずは県民全員にチームのことを知ってほしい」と宇佐美さん。さらなる知名度アップへ広報活動に注力する。

挑戦はまだまだ始まったばかり。3x3のプレーのように、これからもアグレッシブに前へ前へと進んでいく。

※ショットクロック＝攻撃側のチームがシュートをしなければならない制限時間



「スポーツで地域を盛り上げていく。まずはチームの知名度をもっとあげていきたい」と宇佐美さん

TOTTORI BLUE BIRDS
070-8449-5727
https://www.facebook.com/tottoribluebirds/



鳥取県内初のプロ公式大会「3x3.EXE PREMIER Round.6」を開催。観客も多く盛り上がった（2019年8月、鳥取駅前）★



高い技術力誇る

余根田将陽（よねだしょうよう）さん

得意技は2ポイントシュート

細かいステップ、巧みなハンドリング、正確なシュート…。164㌢と小柄ながら、高い技術力でチームを引っ張る余根田将陽さん。小学3年生からコートに立ち、すでに20年近く。鳥取県の国体選手に選出されるほどの実力だ。5人制だけでなく、「SOMECITY（サムシティ）」という3人制ストリートバスケの大会にも参加。バスケ漬けの毎日だが、実は地元銀行で働く銀行マンというギャップにも驚く。

各大会で活躍する姿を目にした宇佐美さんに、チームへ誘われた。「故郷が好きで、関東の大学からUターン就職した僕としては、地元のプロチームで地域のために活動できることがすごく魅力的だった」と余根田さん。入団テストを受けて、2020年シーズンから加入。地元イベントにも積極的に参加する。「どうやったらプロになれますか」と、キラキラした瞳で尋ねてくる子どもたちに、「逆にパワーをもらっている」という。

ポイントラインの外から打つ2ポイントシュートが得意な余根田さんは、今シーズンの活躍が期待されている。試合では2㍍超えの外国人選手と対峙することもあり、身体能力の高さも必須なため、ジムでのトレーニングも欠かさない。

「同じブロック内のチームは、実力が拮抗している。プレーオフ進出の可能性はあるはず」と、闘志をたぎらせている。



プロ公式戦「3x3.EXE PREMIER Round.3」で初勝利した瞬間（2019年6月、仙台市ゼビオアリーナ仙台）★



幅広い可能性 秘める「3x3」

★=写真提供：鳥取ブルーバーズ

パンッ、パンッと空気を切り裂くような音をたて、白いシャトルが鋭いスピードで飛び交う。ショットが決まると、体育館に響きわたるかけ声。気合いの入り具合に、見ているこちらも気が引き締まる。さすが、県内唯一の実業団バドミントンチーム「Cheerful（チアフル）鳥取」（以下、チアフル鳥取）の練習だ。

前身は、数々の輝かしい成績を残した鳥取三洋電機株式会社のバドミントン部。「企業の合併などが影響し、廃部となってしまった。でも、残った選手になんとかバドミントンを続けさせてやりたくて」と語るのは、副理事長兼監督を務める山本明良（あきよし）さん。2013年、現在の形でチームを創設した。

しかし、ゼロからのスタートで運営は容易ではなく、スポンサー企業集めに奔走した。「シャトル代、体育館の使用料、遠征費など、1人当たり年間100万円近く必要。今も継続して多様な県内企業にお願いに回っています。選手と一緒に行くことも」

地域・企業の応援を糧に成長

特定非営利活動法人

Cheerful鳥取

問 特定非営利活動法人Cheerful鳥取
所 鳥取市若葉台北4丁目22-1
☎ 0857-52-0493
WB https://cheerful-tottori.com/
FB https://www.facebook.com/cheerful.tottori

そのかいあって100社以上の協賛を得た。山本さんは「大変ですが、『資金も応援する、選手も雇用するよ』と言ってもらったり、移動用のワゴン車を提供してもらったりしたことも。本当に感謝です」と頭を下げる。

現在、登録選手は8人。全員が県外出身者だが、スポンサー企業に勤務して地元に根付き、業務終了後の夕方から夜まで、週6日・1回3時間程度汗を流す。3人のコーチがおり、技術指導はもちろん練習相手も務めている。



「スポンサー集めは今も大変ですが、選手の層を厚くしつつさらなる勝利を目指したい」と山本さん



現在の登録選手たち（2021年11月末現在）★



創設から8年、さらなる飛躍へ

加盟するS／Jリーグ2で優勝し、上位リーグ昇格を目指すほか、全日本実業団選手権大会、全日本総合・中国地区総合バドミントン選手権大会など数々の団体・個人試合に出場し、ランキングを競う。年間スケジュールはハードだが、明るく元気な選手が多く、逆境も笑顔で乗り越える。

このほか、バドミントンを通じたスポーツの普及・啓発、講習会、イベントの開催などにも力を入れている。チームを応援してくれる人を増やし、選手のモチベーションアップにもつながるため、これも欠かせない活動だ。

企業や地域への恩返しは、やはり試合結果で届けたい。山本さんは、「昨年のリーグでは、ダブルスの桶田彩乃（おけだあやの）・種岡遥香（たねおかはるか）が6勝1敗と大健闘し、敢闘選手賞を受賞した。勝機はある。他の選手のさらなる健闘にも期待する」と見据える。

今シーズンの戦いが、まもなく始まる。

シャトルをはじく音が響き渡る体育館。練習では3人のコーチが交代で指導する



「続けたい」思い強く入団　6年間プレーした　高瀬秀穂さん



「大学卒業後もバドミントンを続けたくて、自分から売り込みをかけたんです」。キャプテンを務める高瀬秀穂（ひでほ）さんは、そんな異例の経緯で入団した。「特定非営利活動法人」で活動するチアフル鳥取は、地域密着型であり、いくつものスポンサー企業のサポートで成り立っている。そこにチームとしての可能性を感じたからだという。

高瀬さんはシングルスプレーヤーで、粘り強いプレーが持ち味。「あまり背が高くないし、特別な決め球を持っているわけでもない。でも、そういう選手にもチャンスがあるのがシングルスのいいところ」。どんなショットも打ち返し、根気強く我慢のラリーを続け、相手のミスを誘うのだ。「だから私の試合は、大抵、長いんです」と笑う。

残念ながら、今年3月で現役を引退する高瀬さん。後半はひざのけがに苦しみながらの選手生活だった。「もっと成績を出したかった」との心残りも多少はあるものの、「大学で思ったような成績を残せなかった私が、このチームに入って憧れのS／Jリーグ2で長く戦えたことは誇り」。さらに「入団後にチームが大きくなり、知名度が上がったこともうれしい」と付け加え、晴れやかな笑顔で6年間を振り返った。今後はコートの外からチームを応援する。

★=写真提供：チアフル鳥取

voice 132号の感想から

「あーとの森」の『瑠璃釉壺』の美しい青色に魅せられました。また、巻頭特集で塩谷定好さんを初めて知り、柔らかい写真の数々に気持ちが穏やかになりました。いつも素敵な紙面にワクワクしながら読ませてもらっています。
（広島県福山市　高橋 恵美）

巻頭特集は、塩谷定好さんの作品や軌跡がよくわかりました。写真記念館にぜひ足を運びたい。また「匠人」の石田秀登さんのような方が鳥取県にいらっしゃるとは知らず、感動しました。
（島根県松江市　岩田 精三）

定好さんは高校生の時、倉吉市の私の母の実家に下宿されていて、母は「さださん」と呼んでいたようです。また私が小学校の折、塩谷写真館で写真を撮っていただき、その1枚を今も大切に持っています。定好さんは、とても優しい方でした。
（千葉県八千代市　山本 恵子）

定好が所属した日本光画協会は、作者が表現したい心象を追求する作風と知り、これが現代の写真作風につながっているんだなあと感動。カメラに興味があり、とても勉強になりました。
（東京都墨田区　山崎 智子）

高速バスの中で、ふと手に取ったところ、表紙の雪景色とカニに見入ってしまいました。頁をめくると、「おもしろ発見手帖」の記事で、稲作栽培での「イトミミズの活用」に驚嘆！次の号も楽しみにしています。
（鳥取県鳥取市　福田 みずほ）

こんな立派な、鳥取県の冊子があることを初めて知りました。写真もきれいで内容も濃い。知らないことがいっぱいでした。またお米が大好きですが「星空舞」は初耳。食べてみたいです。
（奈良県大和郡山市　賀川 陽）

「きらり匠人」のバンブーロッド、高額だけど1本持っていたら、毎日でも川に出掛けるかも。小学生の頃は、竹を切って竿を手作りしていました。
（鳥取県大山町　田中 昭美）

読者 present

■ 応募方法

下記の項目を記入し、ハガキまたは電子メールでご応募ください。

① 希望の商品記号または商品名
② 掲載記事への意見・感想
③ 応募用クイズの答え
④ 住所・氏名・年齢・電話番号

※②の感想が次号の「voice」に掲載される場合、住所・氏名が明記されることをご了承ください。また商品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。

●応募用クイズ●

Q 律令時代に全国にわたって整備された7本の幹線道路の名称は何？空いている□に文字を記入してください。

□□□路

132号のクイズの答えは「芸術写真」

■ 応募先

〒680-8570　鳥取市東町1丁目220
鳥取県広報連絡協議会（鳥取県庁内）
「とっとりNOW読者プレゼント」係
メールアドレス：now@kouhouren.jp

応募〆切 2022. 3/31 消印有効

A



スマートスターチ
（150g・2週間分）　【3名】

南米で育った有機栽培のバナナから抽出した難消化性デンプン「レジスタントスターチ」を豊富に含有。腸内細菌の栄養源になり、不足しがちな食物繊維が補え〝腸活〟に最適。

問 スマートスターチ株式会社
WB https://shop.smartstarch.co.jp/

B

鳥取弥生人みそせんべい
（10枚入）　【5名】

弥生人の人骨や脳が発掘された青谷上寺地遺跡にちなんで、「脳」→「脳みそ」→「味噌」の発想で作られたせんべい。青谷町産味噌を練り込み、ほんのり甘く香りは上品。

問 鳥取市観光コンベンション協会
☎ 0857-26-0756



C



大山どりだしラーメン 塩
（2食入）　【5名】

ちぢれ麺は山陰のアルカリイオン天然水を使い、低温で熟成しながら独特のコシと食感に。スープは、大山の麓で育った大山どりでコクを出し、鶏油で豊かな香りをプラスした。

問 株式会社アグリネット琴浦
☎ 0858-55-0212

Editor's note　□■編集後記■□

1000年以上も前に「国道」と呼べるインフラがあったことには驚いた。（4頁）古代山陰道は、謎がひもとかれるにつれ、現代の工法と酷似している部分が多いという。そしてルートまでもが、近年造った国道と似通っていたとは。時代を超え、同じDNAが脈々と受け継がれてきた証か。その神秘さに胸ときめく。▼しかし。莫大な費用と時間をかけたはずの道は維持されず、そのうち埋もれた。理由は、生活道的には使い勝手が悪かったらしいとの推測。これって、市井の意見を聞かぬまま政策を進めようとする、今の国政と重なるような…。賢さと同時に不実さも遺伝？と、もやもや。▼考古学は小難しいイメージだが、こんな風に「あーでもない、こーでもない」と想像を膨らませる、しかも答えはひとつじゃないのが面白さか。それにしても想像が庶民の思いに至るのは、やはり自身の前世が庶民…なのね。実にときめかない。（苦笑）　【Hi】

《企画・編集・発行》鳥取県広報連絡協議会
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220（鳥取県庁内）
《制作》株式会社シセイ堂デザイン
〒680-0841 鳥取市吉方温泉3-802 TEL.0857-22-1122
0857-26-7086
0857-29-6621

『とっとりNOW』はWEBでも見られます。
WEB限定のコラム「さっけーのTottori推しランチ」「すべての道は鳥取に通ず」「花咲くyokai談」を連載中！